

郵便局×博物館の取り組み ～風景印・小型印、フレーム切手、サテライト展示～

石川 孝織*

ご当地消印「風景印」

全国に2万4千ある郵便局のうち、約1万局に「風景印」というイラスト入りの消印が配備されています。風景印は正式名称を「風景入通信日付印」といい、1931(昭和6)年、富士山に設けられた「富士山郵便局」(静岡県)、「富士山北郵便局」(山梨県)ではじまったものです。郵便局周辺の風景や物産が描かれることが多く、コレクターも多く存在します。直径は36mm、鶯色のインクが用いられます。

当館では日本郵便(株)の前川英樹氏(現イオンモール釧路昭和内郵便局長・博物館友の会理事)とのご縁から、地域の歴史をこの風景印でも伝えるべく、釧路管内の郵便局との協働を進めています。その最初として、2016(平成28)年度企画展「釧路・根室の簡易軌道」開催後、鶴居村営軌道(簡易軌道雪裡線)の起点跡に隣接する釧路新富士郵便局へ、風景印デザイン(自走客車〔ディーゼルカー〕)の原案を提供しました。つづいて、釧路武佐郵便局(太平洋石炭販売輸送の石炭列車)、釧路愛国郵便局(雄別鉄道のSL8722)、布伏内郵便局(同205と選炭場)など、地域の鉄道をテーマとした風景印制作に協力しました。

記念消印「小型印」

風景印に類似したものとして、「小型印」があります。こちらの正式名称は「小型記念通信日付印」といい、直径はやや小さく32mm、記念消印のため押印期間が定められます。当館も大きく関わった「北海道の簡易軌道」の北海道遺産選定(2018年)では、鶴居村営軌道の沿線だった新富士・鶴居・幌呂の各郵便局で(押印終了)、また雄別炭硯閉山50年(2020年)ではイオンモール釧路昭和郵便局、JR釧網本線の美留和駅・川湯温泉駅90周年(同)では美留和郵便局・川湯郵便局で、それぞれ記念する小型印がスタート、デザイン原案を提供しました。

この間、2018(平成30)年には「手紙文化の振興への協力」などに対し、釧路愛国郵便局長名にて日本郵便(株)より感謝状をいただきました(写真)。

「釧路」を消印に乗せて全国、全世界へ

これまで鉄道関係の消印であったことから、公私ともに鉄道に関心を持つ筆者が担当しましたが、2020(令和2)年からは当館キャラクター「はっくん」の生みの親で、デザインも得意とする加藤ゆき恵学芸員(植物)も加わり、イオンモール釧路昭和内郵便局で「やちぼうず」を、また釧路住吉郵便局では当館や春採湖をデザインした風景印が

* 釧路市立博物館



写真. 前川局長(左)より表彰を受ける当館館長

スタート、テーマが自然分野にも拡大しました。

ぜひ、いつものお手紙に風景印・小型印を添えて、釧路の魅力をお伝えいただければと思います。差し出し時に郵便局窓口で「風景印(小型印)で」と申し出れば押印してもらえます。記念にも押印してもらえますが、あくまで「消印」なので、63円の通常はがきか、63円以上の切手を貼付した紙等が必要です。釧路市内で風景印があるのは、釧路中央・釧路北大通六・釧路南大通・釧路駅前・釧路富士見・釧路浪花・釧路武佐・釧路川上・釧路松浦・釧路住吉・釧路大町・釧路愛国・フィッシャーマンズワーフ・釧路西・釧路新富士・イオンモール釧路昭和内・阿寒・布伏内・阿寒湖・音別の各郵便局です。

コレクターからは風景印や小型印は押印初日の「初日印」が重視され、押印開始にあわせ毎回3,000~4,000件以上の「郵頼」(郵送での押印依頼)が全国から、さらには同じく風景印の制度がある中国や台湾、韓国からもあったそうです。

ご当地切手「フレーム切手」

最近、郵便局ではいろいろな写真入りシール型切手が販売されています。「フレーム切手」いい、フレーム部分と金額部分が郵便切手で、写真部分にはオリジナルなものを入れることができます。個人でも1シートから発注(制作)できますが、多くは「ご当地切手」として郵便局の企画により制作され、お土産として、またコレクターズアイテムとしても人気があるそうです。

博物館では風景印・小型印と同様に、地域の歴史や自然を紹介することを目的に、フレーム切手制作に協力しました。第一弾は「釧路地域の開拓を支えた簡易軌道」で、鶴居・標茶・浜中の各町村営軌道の車両を切手にしました。そして「釧路を走る国内唯一の炭鉱鉄道」、魚類・両生類担当の野本和宏学芸員のプロデュースにより、水中カメラ



図1. フレーム切手 (簡易軌道)

マン・関勝則さんの写真を用いた「海と川を旅する釧路からはじまるいのち」、さらに「釧路・根室の簡易軌道」「さよなら、石炭列車」を発売、そして現在、雄別炭硯閉山50年のフレーム切手を準備中です(2020年11月発売予定)。鉄道関係のフレーム切手では1,000シートがあつという間に売れ、また

「海と川を旅する」は、新千歳空港や札幌市内の郵便局で観光客を中心に人気があったそうです。

郵便局との協働を通じて

風景印・小型印の押印、フレーム切手の発売開始と合わ

せ、局舎内での博物館サテライト展示(移動展)を行ってきました。炭鉱や鉄道など歴史系の展示では郵便局利用者、特に高齢者を中心に、当時を懐かしんでいただいています。「私もこの当事者だった」「当時のものを持っている」といった申し出もあり、情報・資料収集の機会ともなっています。郵便局員は普段から顔なじみということも、このような申し出のしやすさに繋がっているようです。地域コミュニティによりきめ細やかに、博物館まで足を運べない方へもアプローチできる、文字通り「サテライト」となっています。

また旅行者にとって、郵便局は切手1枚の購入からはじまる「気軽に訪ねられる場所」でもあります。風景印の押印をきっかけに、郵便局員との会話が弾んだことが旅の思い出として記憶に残り、再訪へ繋がるケースもあるようです。SNSでの情報発信も見逃せません。

「全国ネットワーク」かつ「地域密着」であり、民営化後も公共機関としての機能を持つ郵便局は、過疎化・少子高齢化が進む地方において、セーフティーネットとして、コミュニティの中心として、さらにゲートウェイとしても機能しています。釧路市と日本郵便(株)釧路市内郵便局は2018(平成30)年から包括的連携協定を結んでいます。当館においても地域課題の解決・地域力の向上、魅力の発信へ、協働を続けていきたいと考えています。



図2. これまで博物館が協力した風景印・小型印(日付はすべて押印初日)